

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の3年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (I) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均とほぼ同率であり、基本的な事項は理解ができていると考えられる。
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題 「書くこと」において、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題

数学	全体的な傾向や特徴など	平均的正答率は、マイナス5ポイント程度であり、基礎・基本的な内容が定着していない内容があると考えられる。
	よくできた問題	「数と式」の内容で、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりする等、文字式を活用する問題 「関数」の内容で、グラフから必要な情報を読み取ることや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明する問題
	努力が必要な問題	「図形」の内容で、証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題 「データの活用」の内容で、相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題

理科	全体的な傾向や特徴など	平均IRTスコアは全国平均IRTスコアより1ポイント上回っており、基本的な事項は理解ができていると考えられる。
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域で、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題。 「地球」を柱とする領域で、地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	「地球」を柱とする領域で、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさやすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる問題。 「粒子」を柱とする領域で、化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>◎「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が84.6%と高く、自身を尊重し、ポジティブに捉えることができている。</p> <p>◎「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が92.3%と高く、教師と生徒との信頼関係の構築が確立されていると捉えることができる。</p> <p>◎「友達関係に満足していますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が92.3%と高く、充実した学校生活を送っている生徒が多いことがわかる。</p> <p>◎「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という問いに対して肯定的な回答をした生徒が96.1%と高く、学年全体がお互いに学び合う環境や関係性ができていることがわかる。</p> <p>◎「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という問いに対して肯定的な回答をした生徒が100%であり、本校がテーマにしている「JKK～自分で考えて行動する～」 「他者尊重」が達成できている。</p> <p>△「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という問いに「2時間以上」と回答した生徒が19.2%と全国平均より13.3%下回っているため、家庭において主体的に学ぶ習慣を身に付けられるよう、取組を検討したい。</p> <p>△「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という問いに、「30分以上」と回答した生徒が7.7%と全校平均より13.7%下回っているため、引き続き読書活動の推進に力を入れていきたい。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<p>国語：説明文の読み取りでは、段落の役割を意識し、論理の展開を捉える授業を行う。また、文学作品において、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめる文章作成を行う。その際、生徒自身がテーマを選択できる内容にする。</p> <p>数学：今までに学習した内容について常に振り返りを行いながら、内容の定着を図る。発展的な問題については、キュービナや問題集を活用して数多くの問題に取り組みさせ、支援を行う。</p> <p>理科：実験できない「地球」に関する内容については、スクールプランに示している学習アプリ「キュービナ」を使った学習を行う。また、定期考査においては、その試験範囲が広くなりすぎるので、単元ごと的小テスト等を行うことによって基礎・基本事項の定着を図る。</p>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>・今年度は、「フォーサイト手帳」の活用と外部講師及び教師によるサポートにより、生徒自身で、主に家庭における時間の管理ができるよう取り組んだ。</p> <p>・生徒自身が学習内容を振り返り、自身のつまずきに応じて主体的に学習を進めることができるように、学習アプリ「キュービナ」の活用と教師のサポート体制を整えた。</p>
--